

平成 23 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

[分類]	普及技術
[成果名]	水稻のイネツトムシ防除にトレボン粉剤 DL が有効である
[要約]	水稻のイネツトムシ防除にトレボン粉剤 DL を 10 a 当たり 4 kg 散布する。本剤は合成ピレスロイド剤であり、使用は指定地域に限る。
[担当]	農業試験場環境部
[部会]	病虫部会

1 背景・ねらい

イネツトムシ防除では、効果の高い苗箱施薬剤が開発されており、これが基幹的な防除対策となっている。

一方、発生が多い時などは本田での防除が必要な場合もあるが、普及薬剤となっているディプテレックス剤が今後、失効する予定である。そのため、平成 8、9 及び 17 年度に実施した試験で有効性が認められたトレボン粉剤 DL を今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) 水稻のイネツトムシ防除にトレボン粉剤 DL を 10 a 当たり 4 kg 散布する。

農薬登録内容

トレボン粉剤 DL

[一般名および成分含有量] エトフェンプロックス 0.5%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない [魚毒性] B 類

[対象作物に対する適用登録状況（平成 23 年 9 月 20 日 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害虫	希釈倍数 使用料 (/10a)	使用時期	使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネヒメハモグリガ フタオビコヤガ	3 kg	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	イナゴ類 ウンカ類 カメムシ類 アザミウマ類	3～4 kg				
	イネミズゾウムシ成虫 イネドロオイムシ コブノメイガ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ	3～4 kg				
	イネツトムシ	4 kg				

3 利用上の留意点

(1) 本剤は合成ピレスロイド系殺虫剤であり、使用は指定地域に限る。

(2) 蚕に対して長期間毒性があるので（安全基準日数：稚蚕期及び壮蚕期共に 60 日以上）、桑園付近では使用しない。

(3) ミツバチに対して影響があるので、直接虫体や巣箱にかからないように注意する。

(4) 水産動物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、養魚田及び養殖池などの周辺では使用しない。また、河川に飛散、流入しないように注意する。

(5) 第 1 世代成虫が 7 月下旬に水田に飛来し、産卵する。8 月上旬に 10 株当たり 3 頭以上の幼虫がいる場合に直ちに防除を実施する。

4 対象範囲

県下全域、ただし、合成ピレスロイド剤の使える指定地域に限る

## 5 具体的データ

(1) 平成8および9年に千曲市戸倉で実施した試験で、トレボン粉剤DLは無処理に比較して高い防除効果が認められた。また、稲に対する薬害は認められなかった(表1、表2)。

表1 イネツトムシに対するトレボン粉剤DLの効果(平成8年、農事試験場)

供試薬剤	散布量 (/10a)	8月6日(散布前日)			8月9日(2日後)						
		1-3齢	4-5齢	合計	2-3齢	4-5齢	合計				
トレボン粉剤DL	4kg	24	20	44	0	0	0				
無処理		16	9	25	13	17	30				
(0)											
供試薬剤		8月14日(7日後)				8月22日(15日後)				薬害	
		3齢	4-5齢	蛹	合計	3齢	4-5齢	蛹	羽化殻		合計
トレボン粉剤DL		0	1	0	1	0	1	1	0	2	なし
無処理		2	48	3	53	1	22	36	1	60	
(1)											
(2)											

値は50株当たり虫数、( )内は補正密度指数。

- ・試験場所：千曲市戸倉 ・品種：「ハナエチゼン」 移植：6月24日、中苗機械移植
- ・区政・面積：1区1a、反復無し
- ・処理方法：薬剤は8月7日に手動散粉器で散布した。
- ・調査方法：あらかじめ定めた50株の幼虫、蛹及び羽化殻数を見取り調査した。薬害は観察で判定した。
- ・補正密度指数 = (処理区散布後虫数/無処理区散布後虫数) / (処理区散布前虫数/無処理区散布前虫数) × 100

表2 イネツトムシに対するトレボン粉剤DLの効果(平成9年、農事試験場)

供試薬剤	散布量 (/10a)	8月7日(散布前)				8月11日(4日後)				合計
		1-3齢	4-5齢	蛹	合計	1-3齢	4-5齢	蛹		
トレボン粉剤DL	4kg	—	—	—	—	0.0	1.0	0.8	1.8	
無処理	—	72	76	4	152	5	79	3	87	
(2)										
供試薬剤		8月15日(8日後)				8月22日(15日後)			薬害	
		1-3齢	4-5齢	蛹	合計	4-5齢	蛹	合計		
トレボン粉剤DL		0.0	1.0	0.3	1.3	0.8	0.3	1.1	なし	
無処理		4	90	9	103	40	70	110		
(1)										
(1)										

値は50株当たり虫数、( )内は対無処理比。

- ・試験場所：千曲市戸倉 ・品種：「ハナエチゼン」 移植：6月25日、中苗機械移植
- ・区政・面積：1区2a、反復無し
- ・処理方法：薬剤は8月7日に手動散粉器で散布した。
- ・調査方法：1区200株の幼虫、蛹数を見取り調査した。ただし、無処理は1区50株とした。また、散布前調査は無処理区のみ実施したが、試験ほ場内の発生量はほぼ均一であった。薬害は観察で判定した。

(2) 平成17年にトレボン粉剤DLと殺虫成分含有量が同一であるエトフェンプロックス0.5粉剤DL(商品名：ラテラワイド粉剤DL)を用いて試験を実施した。エトフェンプロックス0.5%粉剤DLの散布3日後及び20日後の虫数を総合すると、対照のディプレックス粉剤DLにはやや劣ったが、実用上問題のない防除効果が認められた。また、稲に対する薬害は認められなかった(表3)。

表3 イネツトムシに対するトレボン粉剤DL (エトフェンプロックス0.5%粉剤DL) の効果  
(平成17年、農事試験場)

供試薬剤	散布量 (/10a)	8月4日(散布前日)				8月8日(3日後)			
		1-3齢	4-5齢	蛹	合計	1-3齢	4-5齢	蛹	合計
エトフェンプロックス0.5% 粉剤DL※	4kg	23	2	0	25	0	0	0	0 (0)
ディプテレックス粉剤DL	4kg	16	3	0	19	0	0	0	0 (0)
無処理		27	4	0	31	16	9	0	25

供試薬剤	8月25日(20日後)				薬害
	1-3齢	4-5齢	蛹	合計	
エトフェンプロックス0.5% 粉剤DL	0	4	2	6 (32)	なし
ディプテレックス粉剤DL	0	2	0	2 (14)	なし
無処理	0	13	10	23	

値は240株当たり虫数、( )内は補正密度指数。

※試験はトレボン粉剤DL (エトフェンプロックス0.5%) と殺虫成分含有量が同じラテラワイド粉剤DL (殺菌成分：メプロニル3.0%、イミノクタジン酢酸塩1.0%、トリシクラゾール0.5%、殺虫成分：エトフェンプロックス0.5%) を用いて実施した。

- ・試験場所：場内水田 ・品種：「キヌヒカリ」、移植：6月24日、中苗機械移植
- ・区制・面積：1区0.7a、連制無し
- ・処理方法：薬剤は8月5日に背負い式動力散粉機で散布した。
- ・調査方法：1区240株の幼虫、蛹数を見取り調査した。薬害は観察で判定した。
- ・補正密度指数 = (処理区散布後虫数/無処理区散布後虫数) / (処理区散布前虫数/無処理区散布前虫数) × 100

## 6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成8、9、17年度(1996、1997、2005年度)、民間受託